

「この日何の日」

女性週間

日本の女性が参政権を得たのは1946年(昭和21年)4月10日のこと。国はこの日からの1週間を「婦人週間」(のちに女性週間)と定め、女性の地位向上をめざす行事が毎年全国各地でひらかれるようになりました。1999年(平成11年6月23日)に「男女共同参画社会基本法」が公布、施行されたことを受けて「男女共同参画週間」が定められ、女性週間は廃止となりましたが、その理念は60年以上経つ現在も続いています。

知っていますか？ ビクトリアの女性(ひと)



カナダ西部に広がるブリティッシュコロンビア州ビクトリア。盛岡出身の新渡戸稲造氏が客死した地であることから一九八五年、盛岡市の姉妹都市となりました。ビクトリアには、「カナダの現代美術の母」と呼ばれ、高く評価されている一人の女性がいます。彼女の名は、エミリー・カー。幼い頃から絵の好きだったカーは、英国移民の両親を早くに失った後、米、英、仏、西に留学し、美術の勉強を続けました。しかし当時のカナダは女性が芸術家を志すには困難な時代でした。芸術は女性の「生きる道」ではなく、上流階級層の「たしなみ」と考えられていたからです。カーの作品や生き方は男性からも女性からも理解されませんでした。自然に惹かれて絵を描き始めます。生活のために長いこの芸術に集中できませんでしたが、転機は五十六歳の時、東部の男性アーティスト集団「グループオブセブン」がカーの作品をみて激励したのです。森へ入り、独自の手法で次々と西部の風景を描いた彼女の作品は、心臓病で七十四歳の生涯に閉じた美術館に収められ、多くの人が愛されています。

現代カナダを代表する画家 エミリー・カー (1871~1945)

もりおか女性センター本館

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-10 プラザおでって5階
電話番号 (019) 604-3303
開館時間 月曜日~金曜日 9:00~21:30(土日祝17:00まで)
休館日 毎月第2火曜日、年末年始

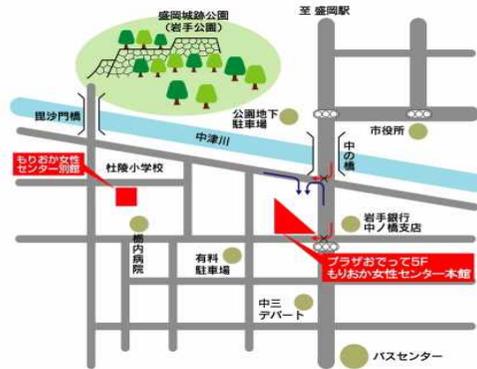
もりおか女性センター別館

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町2-8(旧盛岡市働く婦人の家)
電話番号 (019) 624-3583
開館時間 月曜日~金曜日 9:00~21:00
休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始

ホームページ <http://mjc.sankaku-npo.jp>

管理・運営 もりおか女性センター指定管理者：
特定非営利活動法人参画プランニング・いわて

交通案内



バス
茶畑・バスセンター方面
本館...バスセンター前下車、徒歩3分
別館...バスセンター前下車、徒歩8分

女性センターには専用の駐車場はありません。
おでって地下駐車場や近隣の駐車場をご利用ください。

編集後記

2月24日開催の「シリーズ災害と女性」は、たくさんの方々にご参加いただき、ありがとうございました。4月より新年度のスタートです。また新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。これからも女性センターの事業にぜひご参加ください。(O)

冬の渡り鳥が飛び立ち、すっかり春になりました。別れと出会いの季節。進学、転職、引越など環境が変わり、心細くされている方もいれば、心躍らせている方もいらっしゃるのではないかと思います。いずれの方とも女性センターがたくさんつながりますように。(M)

次回は5月発行です。どうぞお楽しみに！



2008年3月発行

ひとひと
-女と男が参画する社会をめざして-

もりおか女性センター

ニュースレター No.11

- *1~2月事業報告
- *平成20年度事業のお知らせ
- *この日何の日「女性週間」
- *知っていますか？ビクトリアの女性(ひと)

幼稚園情報リスト配布中！

ご希望の方は、窓口まで
お越しください。



女性相談(本館)

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、ひとりひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。

- ◆ 相談には電話相談と面接相談があり、予約が必要です。
- ◆ 相談は無料です。秘密はかたく守ります。

月・火・金曜日...10:00~17:00
水曜日・木曜日...10:00~20:00
相談受付電話...019-604-3304
(第2火曜日と祝日を除く)



発行/もりおか女性センター

平成19年度(1月~2月) もりおか女性センター主催事業 終了報告

シリーズ 災害と女性 1

～一人ひとりの安全が守られる
まちづくりのために～

日時:平成20年2月24日(日)12時50分～16時40分

会場:盛岡市中央公民館 講堂

内容:【第1部】講演 「災害と女性」

【第2部】報告 「学生が取り組む被災地支援活動、そして地域防災」

【第3部】報告 「県内の防災への取り組み」

【第4部】パネルディスカッション

「災害から見えてくるもの～その時あなたは～」

前日からの悪天候にも関わらず、会場となった盛岡中央公民館には盛岡市内はもとより、県内各地、すでに地域防災活動に取り組んでいる方々、行政関係者、学生、女性団体など280名の市民が参加しました。



【第1部】講師の正井礼子さん
(NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ代表)

第1部は、今回の事業のメインテーマでもある「災害と女性」と題し、ウィメンズネット・こうべ代表の正井礼子さんから阪神淡路大震災のご自身の体験と、その後の被害者支援活動に取り組む中で見えてきた、様々な問題についてお話がありました。メディアが報道しなかった被災地の女性たちが出合った様々な困難や性被害の状況などのお話に「そんなことがあったなんて知らなかったし、想像もできなかった」「衝撃であった」という参加者からの声が多くありました。

第2部では、県立大学地域貢献サークル「風土熟人R」から、中越沖地震の際に行ったボランティア活動報告がありました。被災地では、刻一刻と状況が変わり、救援ニーズも段階を追って変わっていくことから、先発チームは状況の把握や調査を行い、後続のチームはその報告を受けて物資の運び込みと、現地の人々との交流や託児活動を行なった経験などパワーポイントで紹介されました。これからの活動のテーマとして防災は平常時からの繋がり、コミュニケーションが大切。そのために自分たちは何ができるのか、という問いかけに、若い世代の力強さを感じました。



【第2部】
「風土熟人R」の浅石裕司さんと八重柏陽子さんの報告

第3部では、行政側から地域防災計画に基づいて実施されている岩手県と盛岡市の取り組みについて報告があり、第4部では、第1部～第3部の総括として、県立大学社会福祉学部の山本先生をコーディネーターにパネルディスカッションを行ないました。



【第3部】
岩手県総務部総合防災室 熊谷和典さんと
盛岡市総務部消防防災課 森勝利さんの報告



【第4部】
コーディネーター:(左側)県立大学 准教授 山本克彦さん
パネリスト:(右より)正井さん、熊谷さん、浅石さん

ニーズとは代弁者の言葉からではなかなか伝わりにくいものがあります。正井さんが正井さんの体験を通し、自身の言葉でニーズを語ることが、会場に参加した多くの参加者の心を突き動かしたように、女性もまた、女性たちの言葉で、障がい者は障がい者の言葉で、高齢者は高齢者の言葉で、これからの災害復興、防災、ひいては一人ひとりの安全が守られるまちづくりについて語る必要性を痛感します。この事業をきっかけに、今後、防災会議の場にも女性が参画できることを願います。

<参加者の声>

- * 正井さんの講演にショック。どんな場でも女性の参画の必要性を痛感しました!
- * 報道では扱われない部分のお話や、災害によって見えてきた社会問題などについて伺えたことが良かった。
- * 様々な分野のお話を伺うことができ、一口に災害といってもいろいろな視点で捉え、考えていかなければならないことを改めて感じました。

図書案内

貸し出しています!
本館 別館



『女たちが語る 阪神・淡路大震災』
ウィメンズネットこうべ編 233頁(2005)

だれもが予期しなかった被災直後に浮上した男女間差別。長い避難所生活の中で女性たちが体験し、感じた「生の声」が収録された貴重な一冊です。



『災害と女性 防災・復興に女性の参画を』
ウィメンズネットこうべ編 133頁(2005)

阪神・淡路大震災の10年後に開かれた防災フォーラム「災害と女性」の記録資料集。女性の視点で災害を検証した結果、分かったことは...

ホームページ情報

「災害と女性」情報ネットワーク

(Disaster & Women information network in Japan)

<http://homepage2.nifty.com.bousai/index.html>

いのちを見つめる講座-女性の高齢期を考える-

1/31~2/14 毎週木曜 午前

30代から80代までの定員を超える女性53名が参加。県内高齢者の意識調査の結果やホスピスの現状について学んだあと、受講生同士でグループになり、自分が望む医療や家族との関わり方などを話し合いました。



それぞれの思いを語りました

<参加者の声>

- * 終末期の話聞き、本当に自分がどうしたいかを元気づけながら家族などに話しておくことが必要だと思った。
- * この講座を受けて「生きる」ということにもっときちんと向き合えなければと感じました。

女性のためのメディア・リテラシー講座

2/2(土)、2/10(日)、2/16(土) 午後

30代から70代までの女性22名が参加。子ども向けのマンガや雑誌、大人向けの週刊誌、テレビCMを題材にメディアを読み解く力、発信する力について学習しました。



週刊誌に描かれた男女をコラージュで分析!

<参加者の声>

- * 今まで気づくことの無かったメディアへの接し方を学べて、とても良かったです。参加者と話す中で気づくこと、教えてもらうこともあり、勉強になりました。
- * 講座を受けて、多様性についてもう一度考え直す機会になった。

私らしく元気アップ講座 ~春に向けて深呼吸、さあ一歩前進!

2/5~2/26 毎週火曜 午前

50代以上の女性を対象にした応援講座で、25名が参加しました。相手をほめるワークや色彩の効用、ストレッチの呼吸法などから、自信をもって活動する方法を学びました。



座りながら簡単ストレッチ!

<参加者の声>

- * ほめるということに感激しました。
- * ウォーキングの姿勢や呼吸について勉強できて良かった。
- * 絵を描くとか、色を塗るとか、何十年もなかったのですが、楽しく高揚した時間でした。

平成20年度事業のお知らせ

事業テーマ

「いつでもチャレンジ それぞれのチャレンジ」★

男女共同参画週間もりおか展 6/22(日)~6/30(月)

もりおか女性センターフェスティバル 10/3(金)、10/4(土)

女性に対する暴力をなくす運動 (11月予定)

* この他、テーマにもとづく各種講座を予定しています。